

移行ガイド

イントラネット・スタートパック Version 6.1

第 5 版

2012 年 06 月 29 日

＜＜ 変更履歴 ＞＞

変更年月日	変更内容
2007/12/28	イントラネット・スタートパック ver6.1 対応版移行ガイド 初版
2008/01/09	『2.3 IWP v6.1 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合』の StorageService 記述削除 『2.3.7 メニューデータの投入』 - [パッチ]パスの修正 第2版
2008/07/25	『2.2.1 IWP の移行』の注意書き記述削除 第3版
2011/09/01	第 4 版 1.2 前提条件 前提条件を追記 2.4.3 制限事項 制限事項を記載
2012/06/29	第 5 版 2.1.2 移行用 SQL ファイルの作成 誤字修正

<< 目次 >>

1	はじめに.....	1
1.1	概要.....	1
1.2	前提条件.....	1
1.3	移行ツールファイルの構成.....	1
2	Ver6.0 からVer6.1 へのデータ移行.....	3
2.1	移行ツール実行手順.....	3
2.1.1	データのバックアップ	3
2.1.2	移行用SQLファイルの作成.....	3
2.2	IWP v6.0 上にISP v6.0 をインストールしていた場合	5
2.2.1	IWPの移行	5
2.2.2	ISP v6.0 のテーブル削除	5
2.2.3	ISP v6.1 のテーブル作成	5
2.2.4	ISP v6.1 の初期データの投入.....	5
2.2.5	移行用データの投入	5
2.2.6	ISP v6.1 のインストール	5
2.2.7	添付ファイルの移行.....	6
2.2.8	メニューデータの投入.....	6
2.3	IWP v6.1 上にISP v6.0 をインストールしていた場合	7
2.3.1	メニューデータの削除.....	7
2.3.2	ISP v6.0 のテーブル削除	7
2.3.3	ISP v6.1 のテーブル作成	7
2.3.4	ISP v6.1 の初期データの投入.....	8
2.3.5	移行用データの投入	8
2.3.6	ISP v6.1 のインストール	8
2.3.7	メニューデータの投入.....	8
2.4	WebMail用移行ツール実行手順.....	9
2.4.1	移行用SQLファイルの作成.....	9
2.4.2	移行データの投入	9
2.4.3	制限事項.....	10
2.4.4	新着メールポータルの変更	10

1 はじめに

1.1 概要

本ドキュメントは、イントラネット・スタートパック Ver6.0(以下 ISP v6.0)で使用していた関連情報を、イントラネット・スタートパック Ver6.1(以下 ISP v6.1)へ移行する際の移行手順について記述します。

このバージョンの移行ツールは、「イントラネット・スタートパック Ver6.1」に対する移行ツールになります。

1.2 前提条件

移行できないデータ等制限事項がありますので、詳細は販売店または弊社営業までお問い合わせください。
弊社、動作検証済み(推奨)環境を「表 1-1 前提条件」に示します。

表 1-1 前提条件

条件項目	対応規格
OS	➤ Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4 ➤ RedHat AS 3 ➤ Solaris 9
Java ランタイム	➤ Java 2 SDK, Standard Edition Version 1.4.2 以降

intra-mart WebPlatform / intra-mart AppFramework を、以下、IWP と略します。

IWP6.0+ISP6.0 を使用している場合には、別な領域(インストールフォルダ、DB とともに)へ IWP6.1+ISP6.1 を用意する必要があります。(IWP6.1+ISP6.0 を使用している場合には、同じ領域を IWP6.1+IWP6.1 へ移行します。)

移行元の ISP v6.0 に関しては、最新のパッチが適用された状態であることが前提になります。また、ISP v6.0 のパッチ適用にあたり必要なデータベース変更なども全て適用済みであることが前提になります。

以下の作業につきましては、IWP、ISP v6.0 のインストールフォルダ及びデータベースのバックアップを必ずとってから、作業を行うようにしてください。

1.3 移行ツールファイルの構成

ダウンロードした圧縮ファイル(im_migration_isp.zip)を、任意のディレクトリに展開します。

Windows の場合は任意の ZIP 解凍ツールで解凍してください。

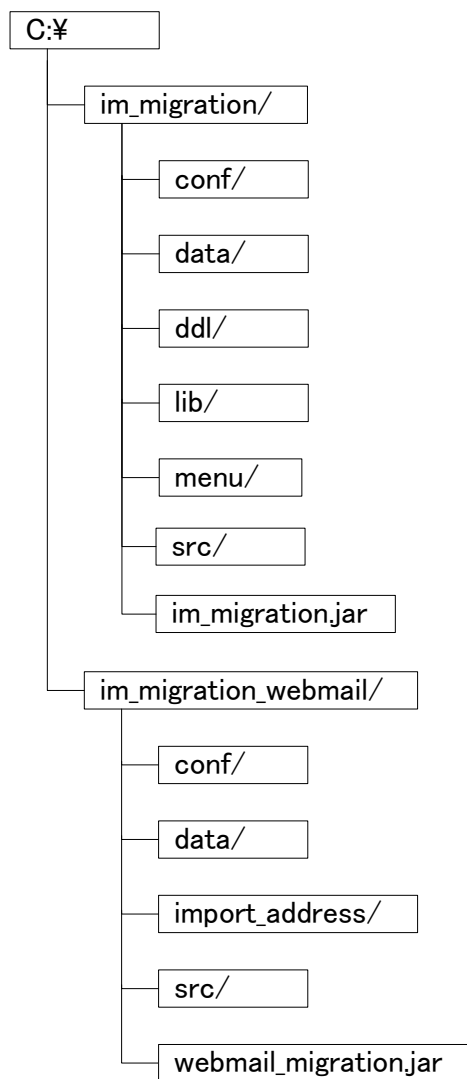
RedHat または Solaris の場合は以下のコマンドで解凍することが可能です。

```
#unzip im_migration_isp.zip
```

ここでは、Windows 環境の場合は「C:\im_migration_isp」、RedHat または Solaris の場合は「/usr/local/im_migration_isp」を展開先とします。

※以下、移行ツールのルートディレクトリ(この場合は C:\im_migration_isp\im_migration)を<% IM_HOME %>、
WebMail 用移行ツールのルートディレクトリ(この場合は C:\im_migration_isp\im_migration_webmail)を<%

IM_MAIL_HOME %>と表記します。



2 Ver6.0 から Ver6.1 へのデータ移行

ISPv6.1 は、これまでの ISPv6.0 とは基本テーブル構成が異なる理由で、同一環境での共存が不可能となります。したがって、ISP v6.1 は ISP v6.0 からの移行作業を行う必要があります。

2.1 移行ツール実行手順

ISP v6.0 から ISP v6.1 へのデータ移行の概要を以下に示します。

以下の条件により、手順が変わります。

- ①IWP6.0+ISP6.0 を使用している場合
- ②IWP6.1+ISP6.0 を使用している場合

実行順	条件	実行手順の参照先
1	①②共通作業	2.1.1 データのバックアップ 2.1.2 移行用 SQL ファイルの生成
2	①IWP6.0+ISP6.0 を使用している場合	2.2 IWP v6.0 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合
2	②IWP6.1+ISP6.0 を使用している場合	2.3 IWP v6.1 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合
3	①②共通作業	2.4 WebMail 用移行ツール実行手順

①

IWP6.0+ISP6.0 を使用している場合には、別な領域（インストールフォルダ）へ IWP6.1+ISP6.1 を用意する必要があります。（②IWP6.1+ISP6.0 を使用している場合には、同じ領域を IWP6.1+IWP6.1 へ移行します。）

2.1.1 データのバックアップ

ISP v6.0 で使用していた環境のバックアップを行います。

バックアップ対象は以下の通りです。

- ・ データベース
- ・ IWP 及び ISP のインストールフォルダ

※必ず完全な形のバックアップを取ることをお勧め致します。

2.1.2 移行用 SQL ファイルの作成

以下の手順で移行用の SQL ファイルを作成します。以下の作業は、ISP v6.0 がインストールされている環境に対して行います。（WebMail の移行は本章では行われません。2.4 WebMail の移行ツール実行手順を参照し、移行してください。）

- (1) 移行ツールを任意の場所にコピーします。（その際、コピーしたディレクトリのルートディレクトリを<% IM_HOME %>とします。）
- (2) <% IM_HOME %>/conf/jdbc.properties ファイルに、ISP v6.0 で使用しているデータベースを設定します。設定内容は以下の通りです。

UserName: DB ユーザ名を設定します。

PassWord:DB パスワードを設定します。

sDBDriver:JDBC ドライバのクラス名を設定します。

sConnStr:DB への接続文字列を設定します。

- (3) <% IM_HOME %>/conf/locale.properties ファイルに、ISP v6.0 で使用しているデータベースの言語などを設定します。設定内容は、以下の通りです。

ENCODE:文字エンコーディング

LOCALE:言語ロケール

記述したあと、locale.properties を isp_migration.jar と同じディレクトリにコピーしてください。

- (4) <% IM_HOME %>/conf/escape.properties ファイルに、ISP v6.1 で使用するデータベースの種類を設定します。設定内容は、以下の通りです。

outDB:ISP v6.1 で使用するデータベースの種類

記述したあと、escape.properties を isp_migration.jar と同じディレクトリにコピーしてください。

- (5) <% IM_HOME %>/lib フォルダに、JDBC ドライバを配置します。
現在使用している intra-mart 環境の lib フォルダにある JDBC ドライバをコピーしてください。
- (6) コマンドプロンプトまたは、ターミナルクライアントを起動します。
- (7) 移行ツールを展開したフォルダ<% IM_HOME %>に移動します。
- (8) 以下のコマンドを実行します。(文書幅の関係で改行されているように見えますが、実際には改行は入力しません。)lib/ojdbc14.jar の部分は、使用されている JDBC ドライバに応じて変更してください。
-Xms と -Xmx の値は環境の出来る限り大きな値を設定してください。以下のコマンドを実行した結果 OutOfMemoryError が発生する場合は、こちらの設定を見直していただくか、実メモリを増設してください。

```
C:\im_migration>java -classpath lib/ojdbc14.jar;isp_migration.jar -Xms1024m -Xmx1024m  
jp.co.intra_mart.data_migration.ISPMigrationMain -output data/ -propertyPath conf/jdbc.properties
```

- (9) <% IM_HOME %>/data フォルダに、SQL ファイルがエクスポートされます。

以上で移行用の SQL ファイルの作成は完了です。

2.2 IWP v6.0 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合

この作業は、IWP v6.0 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合のみ行います。

IWP v6.1 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合は「2.3 IWP v6.1 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合」を参照してください。

2.2.1 IWP の移行

IWP v6.0→IWP v6.1 のデータ移行を行います。移行方法に関しては、IWP v6.1 インストールガイドの 8 章「ver6.0 から ver6.1 へのデータ移行」を参照してください。

2.2.2 ISP v6.0 のテーブル削除

ISP v6.0 のテーブルを削除します。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_DROP_TABLE_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.2.3 ISP v6.1 のテーブル作成

ISP v6.1 のテーブルを作成します。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_CREATE_TABLE_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.2.4 ISP v6.1 の初期データの投入

ISP v6.1 の初期データを投入します(通常の画面から投入する方法ではなく、下記のように SQL を直接 DB へ投入します)。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_INIT_INSERT_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.2.5 移行用データの投入

移行用 SQL ファイルを投入します。

「2.1.2 移行用 SQL ファイルの作成」で作成した移行用 SQL ファイルを全て、SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.2.6 ISP v6.1 のインストール

移行した IWP v6.1 へ、ISP v6.1 のインストールを行ってください。インストール方法に関しては、ISP v6.1 のインストールガイドを参照してください。その際、データベースの接続先は「2.2.4 移行用データの投入」までに構築しているデータベースに対して接続するようにしてください。

【注意】ISP v6.1 のインストールガイド 4.2 「初期データの登録(ログイングループ毎)」および 4.3 「サンプルデータの登録(ログイングループ毎)」は行わないで下さい。

2.2.7 添付ファイルの移行

添付ファイルの移行をします。

ISP v6.0 環境にある StorageService の以下のファイルを、ISP v6.1 環境の StoreageService にコピーしてください。
(以下の記述は StorageService からの相対パスで記述しています)

ISP v6.0	ISP v6.1
startpack/fsroot	startpack/fsroot

2.2.8 メニューデータの投入

グループ管理者でログインし、メニューの[ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]画面から以下のデータファイルを投入してください。(投入するファイルは、<% IM_HOME %>/menu のファイルを使用してください。)

- [メニュー]isp_sfa_com/data/basic/startpack-menu_com.xml
- [メニュー]startpack/data/basic/startpack-menu.xml
- [バッチ] startpack /data/basic/startpack-blog-batch.xml

2.3 IWP v6.1 上にISP v6.0 をインストールしていた場合

この作業は、IWP v6.1 上に ISP v6.0 をインストールしていた場合のみ行います。この作業を行う前に、IWP v6.1 をインストールしていた環境(インストールフォルダ、データベース)のバックアップを必ずとおいてください。ここでは、ISP v6.0 のプログラムファイルを削除します。以下のファイルを削除してください。(ファイルあるいはフォルダがない場合は、削除する必要はありません)

- Server Manager
 - licenses/isp_sfa_com.iar
 - licenses/startpack.iar
 - licenses/sfa.iar
- Web サーバコネクタ または Application Runtime のコンテキストルート
 - flash/webmail フォルダ
 - startpack フォルダ
 - sfa フォルダ
 - webmail フォルダ
- Application Runtime のコンテキストルート
 - WEB-INF/lib/startpack.jar
 - WEB-INF/lib/sfa.jar
 - WEB-INF/lib/webmail.jar
- Resource Service
 - pages/product/src/startpack フォルダ
 - pages/product/src/sfa フォルダ

2.3.1 メニューデータの削除

ISP v6.0 の環境を起動して、グループ管理者でログインし、[メニュー設定]にて以下のデータを全て削除してください。

- ・「イントラネット・スタートパック」以下
- ・「営業支援システム」以下
- ・「イントラネット・スタートパック(モバイル)」以下

これらのメニューデータを全て削除。

2.3.2 ISP v6.0 のテーブル削除

ISP v6.0 のテーブルを削除します。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>/ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_DROP_TABLE_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.3.3 ISP v6.1 のテーブル作成

ISP v6.1 のテーブルを作成します。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>/ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_CREATE_TABLE_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.3.4 ISP v6.1 の初期データの投入

ISP v6.1 の初期データを投入します(通常の画面から投入する方法ではなく、下記のように SQL を直接 DB へ投入します)。

移行ツールに同梱されている、<% IM_HOME %>/ddl/(使用しているデータベース)/ISP v6.10_INIT_INSERT_(使用しているデータベース).sql ファイルを SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.3.5 移行用データの投入

移行用 SQL ファイルを投入します。

「2.1.2 移行用 SQL ファイルの作成」で作成した移行用 SQL ファイルを全て、SQL プラス(Oracle の場合)などのツールを用いて、ISP v6.1 のデータベースに対して実行してください。

2.3.6 ISP v6.1 のインストール

ISP v6.0 がインストールされていた環境に、ISP v6.1 のインストールを行ってください。インストール方法に関しましては、ISP v6.1 のインストールガイドを参照してください。その際、データベースの接続先は「2.3.4 移行用データの投入」までに構築しているデータベースに対して接続するようにしてください。

【注意】ISP v6.1 のインストールガイド 4.2 「初期データの登録(ログイングループ毎)」および 4.3 「サンプルデータの登録(ログイングループ毎)」は行わないで下さい。

2.3.7 メニューデータの投入

グループ管理者でログインし、メニューの[ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]画面から以下のデータファイルを投入してください。(投入するファイルは、<% IM_HOME %>/menu のファイルを使用してください。)

- [メニュー]isp_sfa_com/data/basic/startpack-menu_com.xml
- [メニュー]startpack/data/basic/startpack-menu.xml
- [バッチ] startpack/data/basic/startpack-blog-batch.xml

2.4 WebMail用移行ツール実行手順

ISP6.0 をご使用のお客様は、この章で説明するデータ移行の手順により、以下の「表 2-1 データ移行対象一覧」に示す関連情報の移行データを作成することができます。

表 2-1 データ移行対象一覧

移行元機能	移行されるデータ	移行先機能	移行先のデータ
WebMail	アドレス帳	住所録	個人住所録

2.4.1 移行用 SQL ファイルの作成

以下の手順で移行用の SQL ファイルを作成します。以下の作業は、ISP v6.0 がインストールされている環境に対して行います。

※以下の作業はログイングループ毎に行ってください。

- (1) ISP v6.0 環境にある StorageService の以下のファイルを、<% IM_MAIL_HOME %>/import_address フォルダにコピーしてください。(ISP v6.0 の記述は、StorageService からの相対パスで記述しています。)

※IWP v6.1 上にインストールしていた場合はバックアップからコピーしてください。

ISP v6.0	移行ツール
webmail/data/default(グループ ID)/	<% IM_MAIL_HOME %>/import_address/

- (2) <% IM_MAIL_HOME %>/conf/locale.properties ファイルに、出力ファイルのエンコードを記述します。設定内容は以下の通りです。

ENCODE:文字エンコーディング

- (3) コマンドプロンプトまたは、ターミナルクライアントを起動します。
- (4) WebMail 用移行ツールを展開したフォルダ<% IM_MAIL_HOME %>に移動します。
- (5) 以下のコマンドを実行します。(文書幅の関係で改行されているように見えますが、実際には改行は入力しません。)

以下のコマンドの実行時に、次のパラメータを編集することも可能です。

- i) inputpath: インポート元のパス
- ii) output: 移行データのエクスポート先のパス

```
C:\im_migration_webmail>java -classpath webmail_migration.jar
jp.co.intra_mart.data_migration.WebMailMigrationMain -inputpath import_address -output
data
```

2.4.2 移行データの投入

「2.4.1 移行用 SQL ファイルの作成」において、エクスポート先のフォルダに出力された SQL ファイルを、ISP v6.1 で使用するデータベースに対して実行してください。(パラメータを編集していない場合、<%

IM_MAIL_HOME %>/data フォルダに出力されます。)

2.4.3 制限事項

アドレス帳に登録されたデータが長すぎる場合、SQL の生成及び発行に失敗することがあります。

何れかにおいて失敗した場合、移行ツールの出力する Log を参照し、長すぎるデータを詰めて再度「2.4.1 移行用 SQL ファイルの作成」の手順を実行してください。

WebMail のメール設定に関するデータは移行対象外となります。

2.4.4 新着メールポータルの変更

グループ管理者でログインし、メニューの「ポータル/ポートレット」をクリックし「ポートレット一覧」画面を表示します。

WebMail の新着メールポータルの編集ボタンを押し、「画面パスあるいは URL 種類」の項目を以下のパスに変更してください。

- startpack/portal/wbm_prt010

移行ガイド
イントラネット・スタートパック Version 6.1

第 5 版 : Jun, 29, 2012

Copyright 2007-2012 (株)NTT データイントラマート
All rights Reserved.

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

URL: <http://www.intra-mart.co.jp/>